



説教要旨「信仰の父は不信仰！？」

創世記 18章 1～15節

ユダヤ教・キリスト教・イスラム教のことをまとめて“アブラハムの宗教”と呼びます。アブラハムという名前は、ヘブライ語で多数の父という意味だそうです。ユダヤ教の教義では全てのユダヤ人の、またイスラム教の教義では、ユダヤ人に加えて全てのアラブ人の系譜上の祖とされています。

このアブラハムに神様が最初に語りかけたのは、アブラハムが75歳、妻サラは65歳のときで、神様は子のないアブラハムに子孫繁栄を約束し、アブラハムは神に従って旅に出たのです。アブラハムが99歳になったとき、神様はアブラハムに三度目に語りかけ、三度子孫繁栄を約束するのですが、アブラハムはその時、ひれ伏しながらもひそかにその言葉を笑いました。「百歳の男に子供が生まれるだろうか。90歳のサラに子供が産めるだろうか」(創 17:17)。今日の箇所においては妻サラも同じように神様の約束の言葉をひそかに笑っています。神様はサラが笑ったことを追求しますが、同時に「来年の今ごろ、必ずここにまた来る」という約束も語られています。み言葉を馬鹿にして笑ってしまうアブラハムとサラのところへ、神様は再び訪れて下さるのです。

神様が繰り返し訪れ、出会って下さる。それは私たち信仰者の歩みでもあります。神様は、アブラハムを訪れたよりもずっと頻繁に、わたしたちを訪れ、出会って下さっています。週毎の日曜日、わたしたちはイエス様をお迎えし、精一杯のおもてなしとして礼拝を守ります。そして、そこで語られるみ言葉によって慰められ、励まされ、養われるのです。

イエス様は、わたしは必ずもう一度あなたがたの所に戻って来る、と約束して下さいました。その時にこそ、わたしたちの救いは完成します。今もなおわたしたちにまとわりつく全ての罪がぬぐい去られ、あらゆる苦しみや悲しみが取り去られて、イエス様と共に復活の命と体を生きる恵みが約束されているのです。

不信仰なわたしたちに、愛想を尽かすことなく、何度も、何度でも語りかけて下さる神様に信頼して、共に歩んで参りましょう。

(2022・11・6 説教者：稲垣真実)